

モーセ
聖徒伝 47

「主の約束に 生かされて」

申命記1～4章

モーセの追想・新世代へ

申命記①

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 序章 1章1～8節

II. 荒野の40年 1章

III. 40年後の戦い 2章

IV. 最初の占領地 3章

V. 使命と戒め 4章

VI. まとめと適用

与えられた恵み

祝福された約束



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

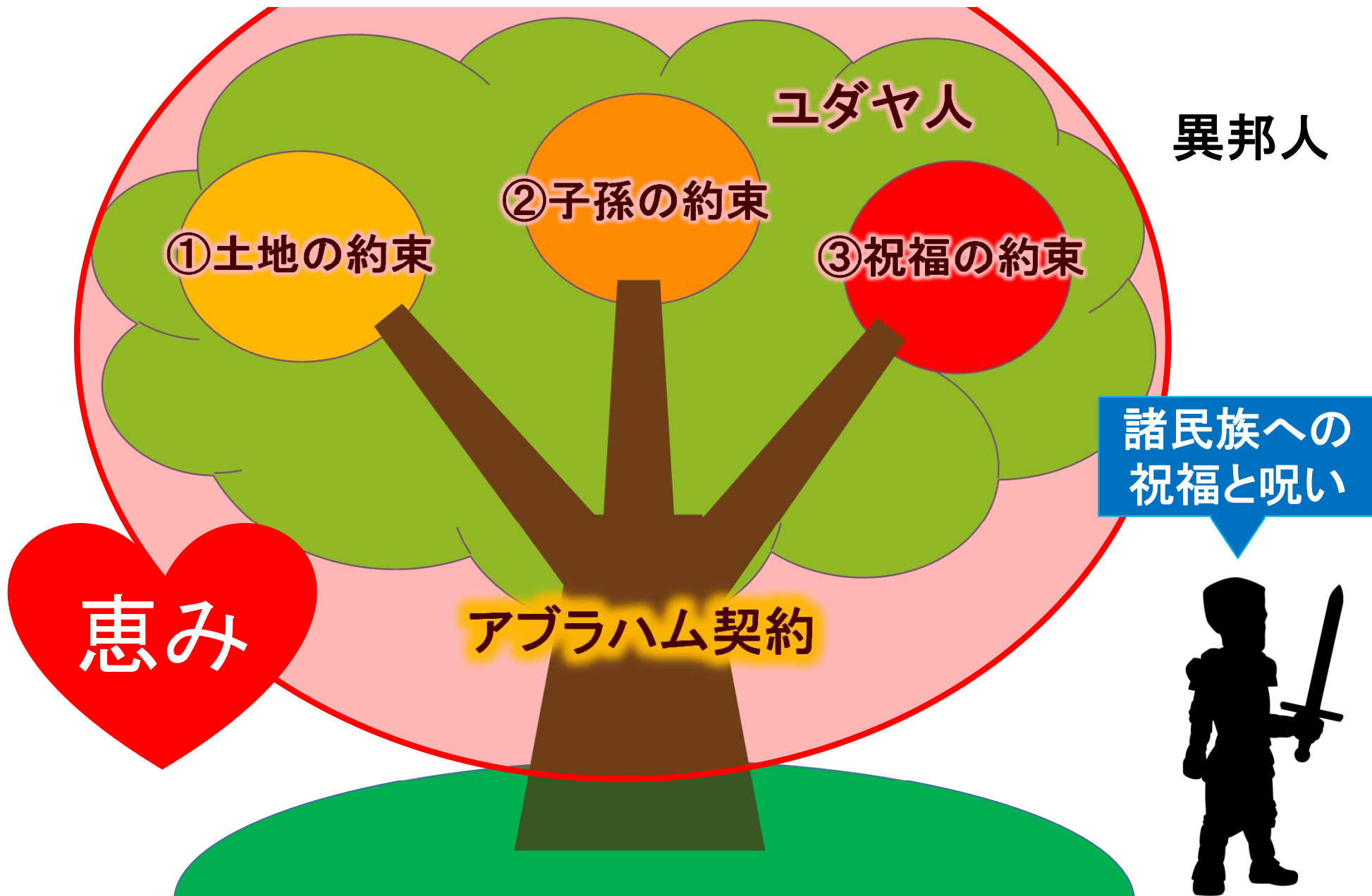
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

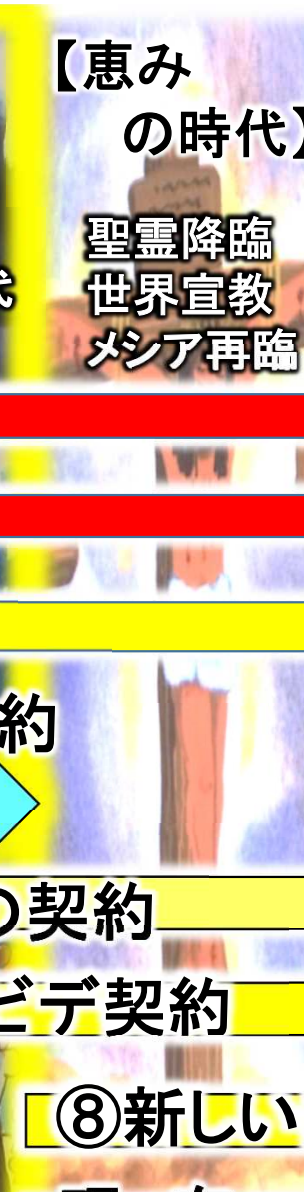
※しるし ...割礼

イスラエルを
守り導く土台



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

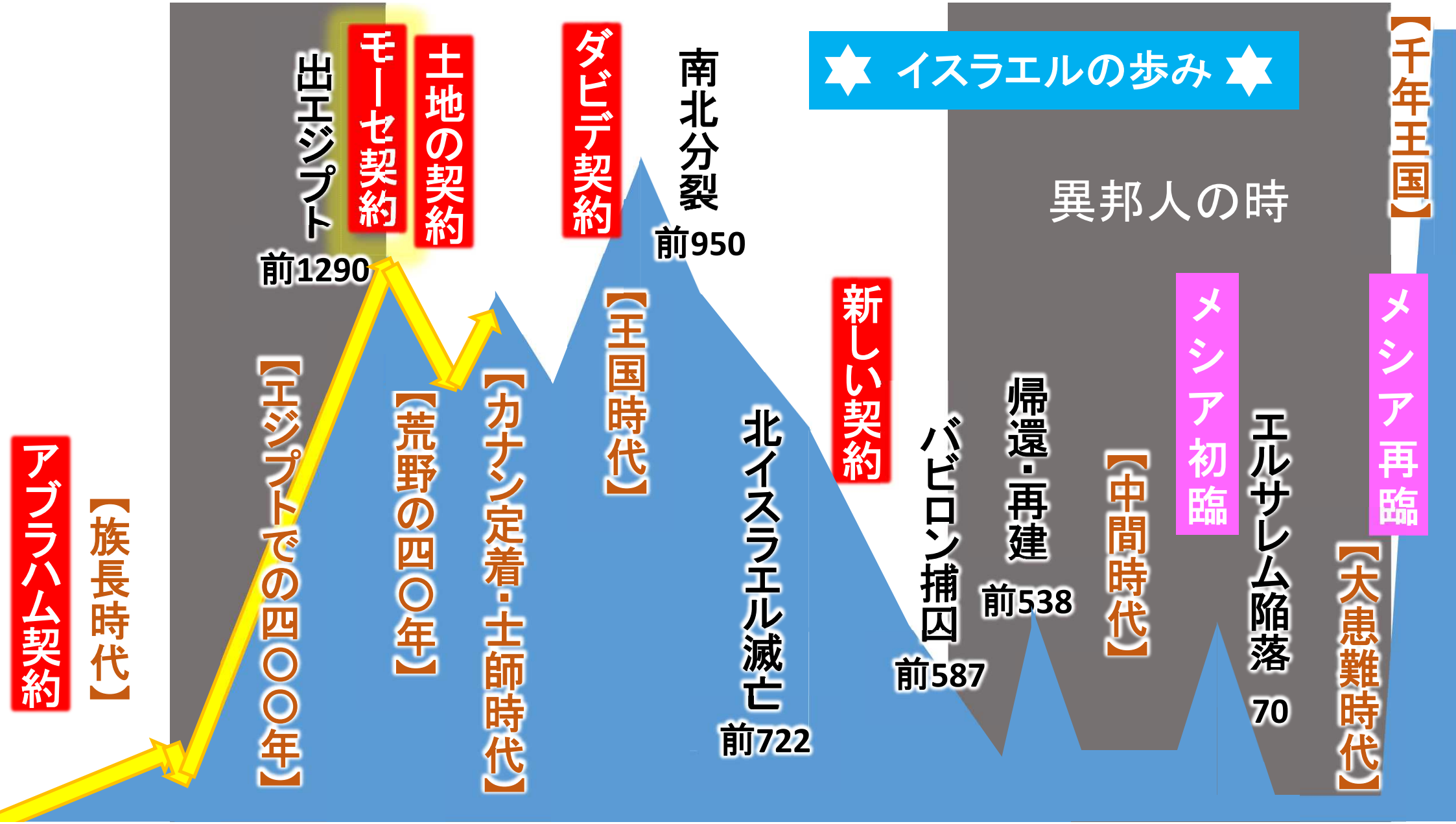
- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。



律法は、条件付き契約

従えば、祝福。破れば、呪い

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

前1290

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

前950

南北分裂

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

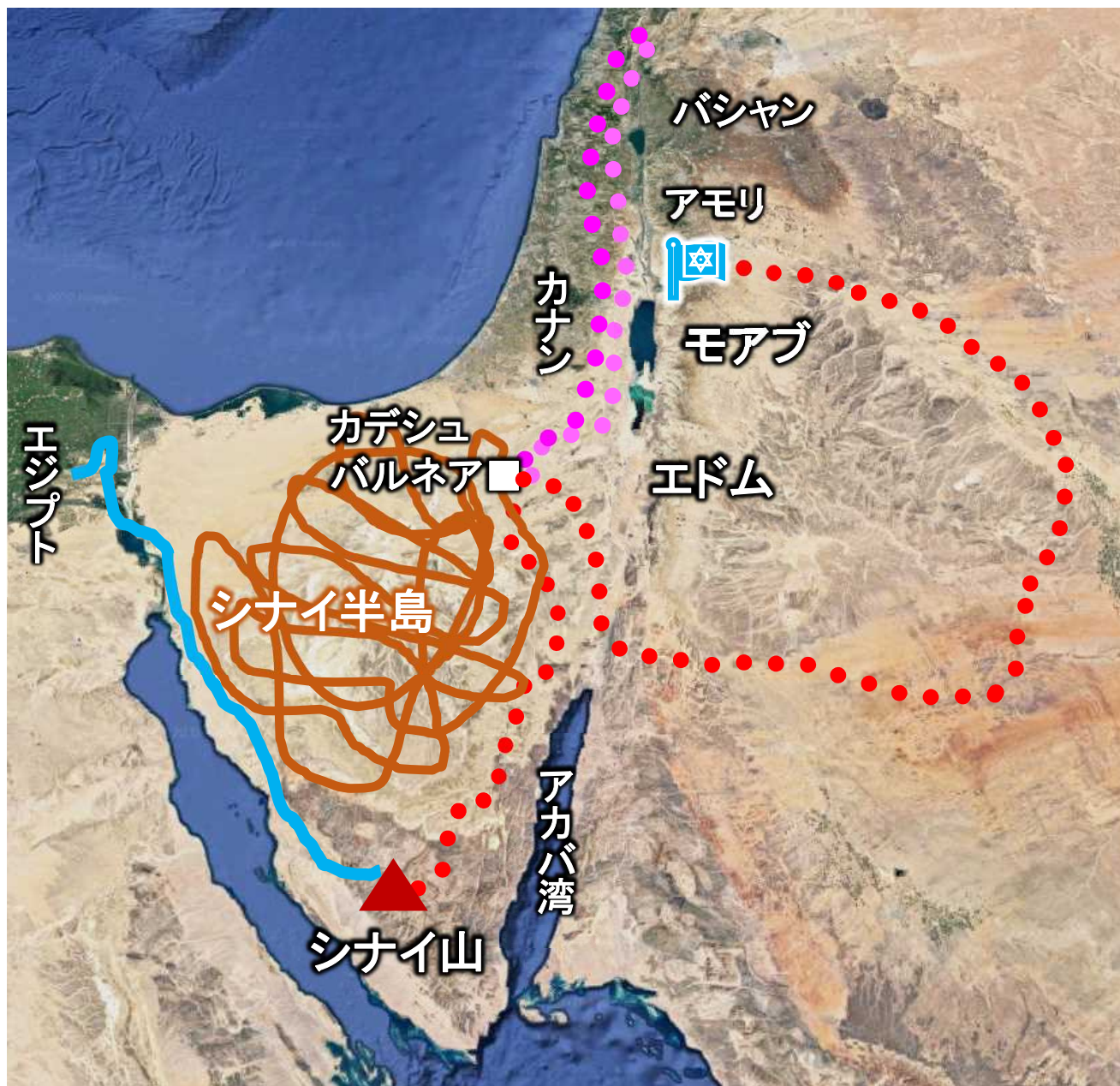
【荒野の40年】

■カデシュ・バルネア事件

イスラエルは、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えることとなった。

■ エジプトから約束の地まで、歩いて10日ほどの距離をイスラエルは、40年放浪した。

■ ヨルダン川の東まで、イスラエルはやってきた。



I. 序章 申命記1章1～8節



【モーセの遺言】 申1:1

これは、モーセがイスラエルのすべての民に告げたことば*である。ヨルダンの川向こう、パランと、トフェル、ラバン、ハツェロテ、ディ・ザハブとの間の、スフに面したアラバの荒野でのことであった。

* 申命記の語り部は、モーセ。

■ 約束の地を目の前にモーセが最後に残した遺言。
➡それが「申命記」

■ 申命記は、“繰り返し命じる”という意味。

➡内容の実際は、新世代に向けた“**律法の注解書**”



【荒野の40年の末に】 申1:2

—ホレブからセイル山を経てカデシュ・バルネアに至る道のりは、十一日である—

1:3 第四十年の第十一月の一日にモーセは、【主】がイスラエルの子らのために彼に命じられた、すべてのことにしたがって、彼らに語った。

1:4 それはモーセが、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホン、およびアシュタロテに住んでいたバシヤンの王オグを、エデレイで打ち破った後のことであった。

1:5 ヨルダンの川向こう、モアブの地で、モーセは次のように、**みおしえの確認**を行うことにした。

申命記の目的は、律法の確認



【アブラハム契約・土地の約束に従って】 申1:6～8

私たちの神、【主】はホレブで私たちに告げられた。

「あなたがたはこの山に十分長くとどまった。

あなたがたは向きを変えて出発せよ。そしてアモリ人の山地に、またそのすべての近隣の者たちの地、すなわち、アラバ、山地、シェフェラ、ネゲブ、海辺、カナン人の地、レバノン、さらにあの大河ユーフラテス川にまで行け。

見よ、わたしはその地をあなたがたの手に渡している。行け。その地を所有せよ。これは【主】があなたがたの父祖アブラハム、イサク、ヤコブに対して、彼らとその後の子孫に与えると誓った地である。」



Ⅱ. 荒野の40年

申命記1章



【長たちの選出】 申9～19

■ 部族ごとの長・さばき人の選出についての再確認
千人長、百人長、五十人長、十人長…。

→イスラエルの統治体制が新世代に確認される。

「申 1:13 あなたがたは部族ごとに、知恵があり判断力があり経験に富む人たちを出しなさい。彼らをあなたがたのかしらとして立てよう。」

■ さばき人への求め

- ①知恵、判断力、経験 → 民の模範であること。
- ②双方の言い分を良く聞く → イスラエルも寄留者も。
- ③人を恐れぬ → 神だけを恐れる。



【カデシュ・バルネア事件】 申命記1:19～33

■ イスラエルの回帰不能点となった事件の確認。

■ カデシュ・バルネアから、偵察隊が派遣された。

➡ 民が提案し、モーセが了承し、神が認めた。

「その地は確かによい地だったが、
伝説の巨人が支配する恐ろしい地だ」と報告が！

■ モーセは、イスラエルが見た、神の恵みを訴えた。

主は、人が自分の子を抱くようにイスラエルを抱き、
先だって宿営地を探し、道を示されたと。

■ 神は、シャカイナグローリーを現し、民と共におられ、
夜は火の柱、昼は雲の柱をもって民を導かれた。



【カデシュ・バルネアに学ぶ教訓】 申1:34～42

■この世代のイスラエルは相続地を拒まれた。

➡主への信頼を貫いたヨシュアとカレブは例外

■“あなたがたのゆえに” モーセも拒まれた。

➡モーセ自身も、メリバで主に従わなかった。

命令に背き、二度岩を打ちたたいてしまった。

➡モーセは、自分の責任と民の責任を負った。

■民は、約束の地に上ったが、時すでに遅し。

➡開き直った不遜な動機に過ぎなかったため、コテンパンに打ち破られてしまった。

■民は、“長い期間カデシュにとどまった”

➡イスラエルは、長い間、不信仰に陥っていた。



Ⅲ. 40年後の戦い

申命記2章



【エドムの地を避けて】 申2:1～14

- イスラエルは、エドム人の地を避け、
主要な街道も避け、(裏道を通って!!)
セイル山地を迂回して行った。
- エドムとの戦いを避けるためだった。
➡ヤコブ(イスラエル)の兄エサウの
子孫がエドム。兄弟の民族。
- モアブの地も避けた。
➡アブラハムの甥ロトの子孫がモアブ。
- ゼデレ川(水なし川)を渡ると、
いよいよ約束の地は目の前に!!



【アブラハムの子孫である諸民族】 申2:15～23

■ アンモン人とも敵対するなと命じられた。

➡ アンモン人もアブラハムの甥ロトの子孫。

■ モアブ、エドム、アンモンは、それぞれ、
強大な先住民を討って、土地を手に入れた。

➡ 神が守り、その土地を与えられた。

■ アブラハムから出た諸民族は、イスラエルの影。

➡ 傍流の民族さえ、これだけ祝福されるなら、
イスラエルの祝福はどれほどだろうか？



【イスラエルを拒絶したアモリ人】 申2:24～37

■アモリ人に、エドム同様の申し出を行った。

しかし、王シホンは、通らせようとしなかった。

「申 2:30 それは今日見るとおり、彼をあなたの手
に渡すために、あなたの神、【主】が彼の心を頑なに
し、彼を強気にされたからである。」

■王シホンは、最初からイスラエルを拒んでいた。

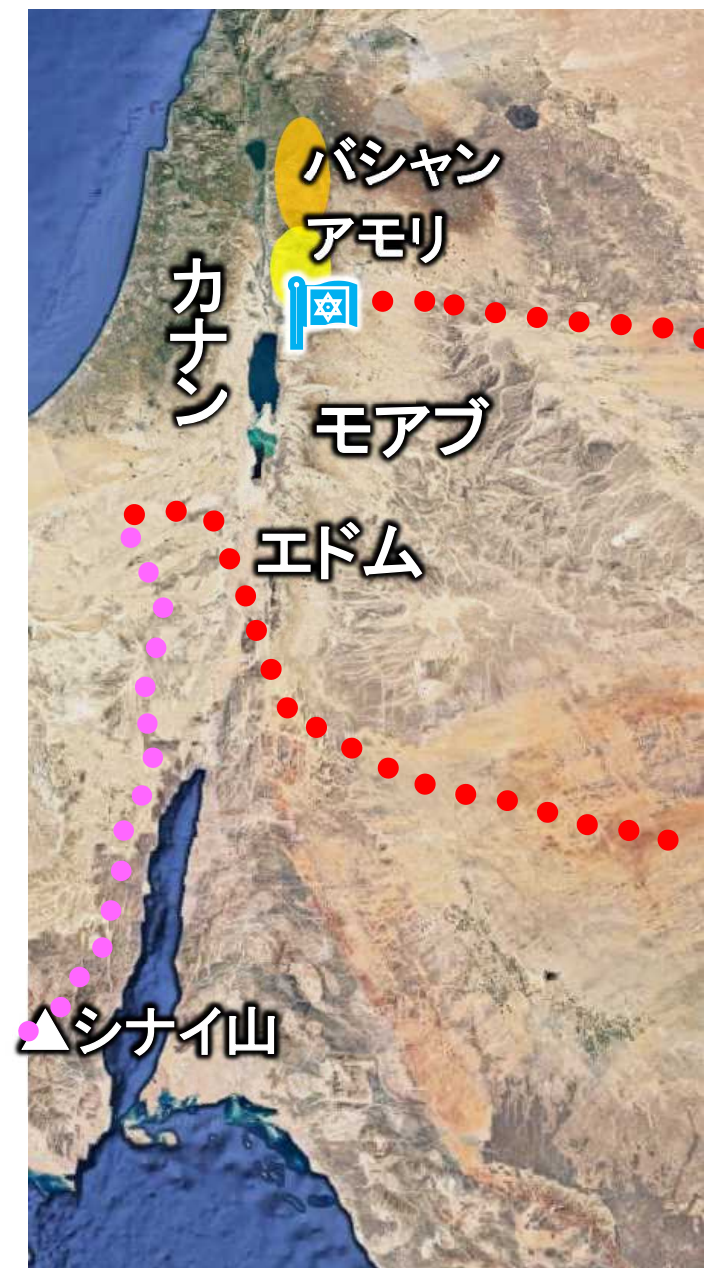
その傲慢な心すら主は用いて事を進められる。

➡アモリは討たれ、イスラエルの手に渡された。

■私たちが自由意志で選んだこと。

それすら主の御手の中にある。

御心に叶って用いられる者でありたい!!



IV. 最初の占領地

申命記3章

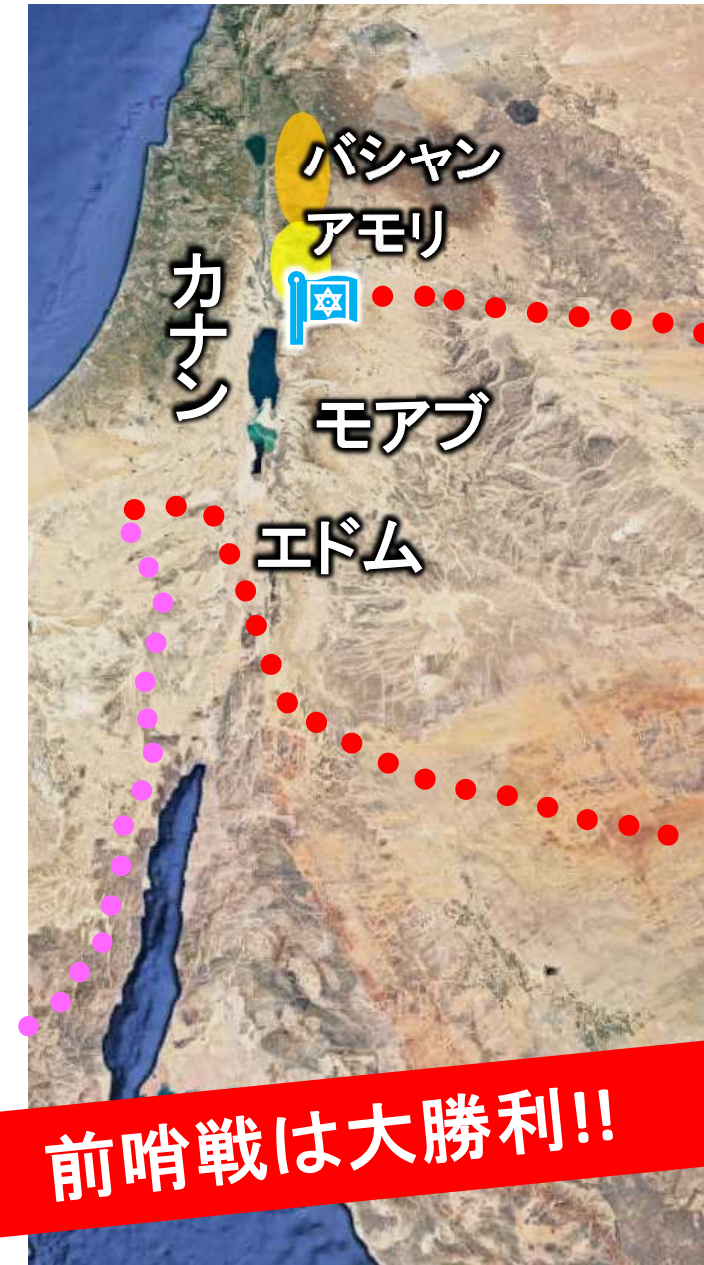


【バシヤンとの戦い】 申3:1～11

- バシヤンも申し出を拒絶し、打って出てきた。
イスラエルが勝利し、バシヤンは聖絶された。

「申3:11 –バシヤンの王オグはレファイムの唯一の生き残りであった。見よ。彼の寝台は鉄の寝台で、それはアンモン人のラバにあるではないか。その長さは規準のキュビトで九キュビト*、その幅は四キュビト*である– 」 (* 長さ約4m、幅1.8m)

- かつてカデシュで震えあがった、強大な民を
イスラエルは、主の力によって打ち倒した。



【ヨルダン川東岸の相続地】 申3:12～29

■ アモリとバシャンが、ルベン族とガド族の相続地に!!

■ 特例に当たり、モーセが両部族と確認したこと。

- ① 約束の地の戦いの先頭に立っていくこと。
- ② 妻子は、守りを固めた町々にとどまっていたいい。
- ③ 全部族が相続地を手に入れた後、帰還できる。

■ モーセはヨシュアに告げた。

申3:21「あなたは、あなたがたの神、【主】がこれら二人の王に対して行われたすべてのことを、自分の目を見た。【主】は、あなたがこれから渡って行くすべての国々にも同じようにされる。」

“恐れてはならない。” 戦ってくださるのは主だから!!



IV. 使命と戒め

申命記4章



【主の命令】 申4:1～2

今、イスラエルよ、私が教える掟と定めを聞き、それらを行いなさい。それはあなたがたが生き、あなたがたの父祖の神、【主】があなたがたに与えようとしておられる地に入り、それを所有するためである。

私があなたがたに命じることばにつけ加えてはならない。また減らしてはならない。私があなたがたに命じる、あなたがたの神、【主】の命令を守らなければならない。

■ 主の命令に従い、歩むことがイスラエルの使命

神の民として、神を証しするために、イスラエルは選ばれた!!



【イスラエルの使命と神の警告】 3:5～9

■ 直近のバアル・ペオル事件は、旧世代への最後の裁きとなり、2万4千人が打たれた。

→ 今日も生かされているあなたがたは、主にすがる者

■ 律法を守り、諸民族の模範となるよう召されている。

■ 神が共に歩まれ、神の法を持つ民など他にない。

「申4:9 ただ、あなたはよく気をつけ、十分に用心し、あなたが自分の目で見ただけのことを忘れず、一生の間それらがあなたの心から離れることのないようにしなさい。そしてそれらを、あなたの子どもや孫たちに知らせなさい。」

主の御業を心に刻み、子に孫に伝えよう!!



【シナイ山での主の命令】 申4:10～19

あなたがホレブで、あなたの神、【主】の前に立った日に【主】は私に言われた。「民をわたしのもとに集めよ。わたしは彼らにわたしのことばを聞かせる。それによって、彼らが地上に生きている日の間わたしを恐れることを学び、また彼らがその子どもたちに教えることができるように。」

■ 主は、主の栄光の火と闇と雲と暗黒の内に臨在され、民と律法を結ばれ、掟と定めを石の板に刻まれた。

■ 民は、神は目に見えない方だと知った。

➡すべての偶像も、天の万象も、神ではない!!

■ 主を恐れる者とは、主の命令に従い、行動する者。



【愛の神は、ねたみの神】 申4:20～24

「申4:20【主】はあなたがたを取って、鉄の炉から、すなわちエジプトから導き出し、今日のようにゆずりの民とされたのである。」

- 奴隷の400年間で、イスラエル民族を精錬した。
主が解放し、荒野を導き、ゆずりの地を与えられる。

「申4:24 あなたの神、【主】は焼き尽くす火、ねたみの神である。」

- 旧世代は、モーセも、背きのゆえ、死に絶える。
→ 神は、愛する者の不貞をねたまれる。

親の世代への裁きをもって、新世代は、神の戒めの重さを学ぶ



【イスラエルの背きと民族的回心の予告】 申4:25～31

- 約束の地で墮落し、偶像を拝めば、裁きがある。
- イスラエルは、その地を追われ、全地に散らされる。しかし、悔い改めにいたるなら、再び主と出会う。

「申4:30～31 こうして終わりの日に、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたが苦しみのうちにあるとき、あなたは、あなたの神、【主】に立ち返り、御声に聞き従う。あなたの神、【主】はあわれみ深い神であり、あなたを捨てず、あなたを滅ぼさず、あなたの父祖たちに誓った契約を忘れないからである。」

永遠のアブラハム契約が、イスラエルを守り、導き続ける!!



大患難時代に
民族的回心に至る

プレ土地の契約

【イスラエルに現れた主の御業】 申4:32～35

■ 神の栄光を見、神の語りかけを受けた民は他にない。
神の声を聞いて、生きていた民はいない。

■ 主は、エジプトから、イスラエルを導き出し、
“試みと、しるしと不思議と、戦いをもって、また力強い御
手と伸ばされた御腕と、恐ろしい力をもって、一つの国民
をほかの国民の中から取り、ご自分のものにされた”

➡ 主だけが神であり、他に神はいないと知るために!!



【イスラエルに求められる信仰の応答】

- イスラエルは、栄光の火の中から御声を聞いた。
主の一方的な選びによって、エジプトから解放された。
- はるかに強大な国々を、主は追い払い、ご自身の計画に従って民を約束の地に導き入れられる。

■ 御言葉を聞いた者には、応答する責任が求められる。
「申4:39～40 今日あなたは、上は天、下は地において【主】だけが神であり、ほかに神はいないことを知り、心にとどめなさい。今日、私が命じる主の掟と命令を守りなさい。あなたも、あなたの後の子孫も幸せになり、あなたの神、【主】が永久に与えようとしておられるその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。」



【新世代への確認】 申4:41～49

■ヨルダン川東岸に3つの逃れの町が定められた。

➡逃れの町は、神の憐れみと救いの道を示すもの。

■新世代に現された、主の恵みが確認された。

➡アモリとバシヤンが打たれ、ヨルダン川東岸が、
イスラエルの最初の相続地として与えられた。

■その事実を目の前にして、新世代のイスラエルに、
律法の遵守と主への従順が求められた。

「申4:44～45 これは、モーセがイスラエルの子らに示したみおしえである。これらはさとしと掟と定めであり、イスラエルの子らがエジプトを出たとき、モーセが彼らに告げたものである。」



VI. まとめと適用

与えられた恵み
約束された祝福



【荒野の40年を振り返る】

■ 申命記は、モーセの遺言。新世代への最後のメッセージ。

① モーセはまず、**新世代が体験した恵み**から思い起こさせている。

→ アモリとバシャンを打ち、最初の相続地を手に入れた。

② そして、**旧世代に与えられた恵み**を回顧し、語って聞かせている。

→ 出エジプト、シナイでの神の権限、律法の授与。

■ 同時に、旧世代と新世代の罪も、思い起こさせられている。

→ 放浪を招いたカデシュ・バルネア事件、
旧世代最後の裁きを招いたバアル・ペオル事件

恵みの土台が、
アブラハム契約
一方的な約束

■ 罪の認識が進むほどに、神の恵みをより深く味わわされていく。

モーセは、新世代と共に、主の恵みを味わい、身に刻もうとしている。

【いつでも、日々、確認すべき、主の恵みの土台】

■ 今、与えられている恵みを確認しよう。

■ すでに、これまで与えられてきた恵みを思い起こそう。

■ そして、将来に約束されている計り知れない祝福に思いを馳せよう。

■ ただ、福音を信じて、罪ゆるされた。主の目によしとされた。

■ 罪人だった私のために、主イエスは十字架にかけられた。

■ 復活されて天におられる主は、間もなく帰って来られ、

世界のすべてを回復され、永遠にその地に住まわせてくださる。

■ 私たちは、どれほどの恵みを与えられ、今も与えられているだろうか。

学びを深めていこう。御言葉を味わい尽くそう。

深まる将来の確信が、喜びわき上がらせ、この身を押し出してくれる。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

今も、これまでも、これからも、永遠(えいえん)に 主が共(とも)にいて
導(みちび)いて くださいます。

永遠(えいえん)の約束(やくそく)の上に、計(はか)り知(し)れない
恵(めぐ)みを 味(あじ)わわせてください。

学(まな)びをさらに深(ふか)めつつ、救(すく)いの確信(かくしん)と
わきあがる喜(よろこ)びをもって、ここから押(お)し出(だ)してください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」